

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度（令和2年度）	科目名	資格対策講座4	
科目基礎情報					
開設学科	AIシステム科	コース名	—	開設期	後期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	2単位	開講時間		授業形態	講義
教科書/教材	ITワールド インフォテックサーブ / IT戦略とマネジメント インフォテックサーブ / e-Festa				
担当教員情報					
担当教員			実務経験の有無・職種		
学習目的					
基本情報技術者試験はIPAが主催する国家資格の一つであり、高度IT人材となるために必要な基本的知識・技能をもち、実践的な活用能力を身に付けたことを証明する資格である。本資格はIT業界で開発者として働いていくために最低限必要とされている資格であり、遅くとも入社後3年目までには取得を推奨していることが多い。 本講座では基本情報技術者試験の午前試験免除制度を利用し、修了試験に合格することを目的とする。					
到達目標					
基本情報技術者試験（F E）の午前試験免除制度を利用し、修了試験に合格できる力を身に着けることを目標とする。基本情報技術者試験のテクノロジー分野(基礎理論、アルゴリズムとプログラミング、コンピュータ構成要素、システム構成要素、ソフトウェア、ハードウェア、ヒューマンインタフェース、マルチメディア、データベース、ネットワーク、セキュリティ、システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術)、マネジメント分野(プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム監査)、ストラテジ分野(システム戦略、システム企画、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント、ビジネスインダストリ、企業活動、法務)のうち過去に出題された問題を重点的に理解する。					
教育方法等					
授業概要	午前試験について過去問を解き、見直しを行った上で解説を行っていく。過去問題の出題頻度の高いものから順に対策していき、合格可能性を高める授業を実施する。自宅でe-ラーニングを行い、授業の中で質疑応答をする「反転学習」の形式をとるため、学生自身が自宅学習を怠ることなく進めることが肝要となる。				
注意点	社会への移行を前提とした受講マナーで参加し、講義中の私語や受講態度などには厳しく対応する。（詳しくは初回の講義で説明する。）理由のない遅刻や欠席は認めない。また、午前免除制度で認定されたeラーニング型試験対策システムを利用するため、認定テキスト、e-Lerningシステムは必ず購入し、自宅学習を進める必要がある。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	過去問の点数の増減を基に評価する		
	小テスト				
	レポート				
	成果発表 (口頭・実技)				
	平常点	50%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回） 1回（2）時間 ※45分を1時間とする					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	ガイダンス		基本情報技術者試験の午前免除資格の必要性、今後の進め方を理解する。		
2回	過去問演習と演習の解説(1)		GCPの環境に依存した状況で、機械学習のアルゴリズムの実装を行う。TensorFlowの実行環境を行う		
3回	過去問演習と演習の解説(2)		GCPの環境に依存した状況で、機械学習のアルゴリズムの実装を行う。TensorFlowの実行環境を行う		
4回	過去問演習と演習の解説(3)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる。		
5回	過去問演習と演習の解説(4)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる。		
6回	過去問演習と演習の解説(5)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる。		
7回	過去問演習と演習の解説(6)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる。		
8回	過去問演習と演習の解説(7)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる。		
9回	過去問演習と演習の解説(8)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる。		
10回	過去問演習と演習の解説(9)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる。		
11回	過去問演習と演習の解説(10)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる。		
12回	過去問演習と演習の解説(11)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる。		
13回	過去問演習と演習の解説(12)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる。		
14回	過去問演習と演習の解説(13)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる。		
15回	過去問演習と演習の解説(14)		過去問の演習・解説を通して、解答を理解できる。		